

関東・甲信越

キャンパスNews

国立大

群馬大

学生広報大使が進学相談会に スタッフとして参加

群馬大の「学生広報大使(Student Ambassador)」が、7月2日にピエント高崎で行われた進学相談会に、同大学の職員とともにスタッフとして参加し、学生としての経験を生かして高校生からの相談に対応した。参加した今井里咲さん(医学部保健学科看護学専攻2年)は、「自分が高校生の役に少しでも立っていると感じられたことは、本当にうれしかったです」とコメントしている。

「学生広報大使」は、2017年4月に結成された同大学の学生による学生広報チーム。その活動内容は、オープンキャンパスの運営スタッフ、高校訪問や学外の進学イベントにおける広報活動、大学の広報誌制作の企画や在学生のメッセージ発信、大学オリジナルグッズのプロデュースのほか、YouTube用CMへの出演など多岐にわたる。学生目線で同大学の魅力を積極的に発信しており、今年度は、計143名(6月4日現在)が学生広報大使に任命されている。

同大学は各地で行われる進学相談会に参加しており、オープンキャンパスでも在学生と話ができる個別相談コーナーを設けている。



高校生の相談に答える学生広報大使の今井さん

千葉大

学生デザインのうちわ制作で 学内の省エネを推進

学生主体で環境活動を行う千葉大の学生団体「環境ISO学生委員会」が、省エネメッセージを込めてデザインしたオリジナルうちわを今年も制作した。うちわの制作は、夏の省エネ推進を目的に2005年から毎年継続されており、今年は3,500本を制作。学生や教職員に配布するほか、今後、学外の環境系イベントでも配布していく予定だ。

今年のうちわのデザインは、同委員会所属の田中真由さん(園芸学部2年)が担当。環境に配慮した素材で制作され、表面には同委員会のマスコットキャラクター「いそちゃん」と七夕飾りを配置。裏面には「省エネで未来の地球を守ろう」というメッセージと省エネ行動をあらわした。

同大学は、国際規格ISO14001を2005年に、ISO50001を2013年に取得し、省エネ省資源など環境負荷の削減に継続的に取り組んでいる。この活動を中心的に支える「環境ISO学生委員会」は、2003年に発足した学生団体で、毎年1~3年生まで約150名が所属。エコグッズ作成のほか、環境負荷削減の意識啓発や、小中学校幼稚園への環境教育など、幅広い活動を行っており、近年は「International Green Gown Awards(国際グリーンガウン賞)」をはじめ、さまざまな賞を受賞している。



各キャンパスで7月に行われた「省エネ省資源イベント」にて、オリジナルうちわを配布する学生

私立大

桜美林大

学生団体が学生の交流場 「趣味cafe」をプレオープン

学生生活を楽しく過ごすために、さまざまな企画を開催する桜美林大の学生団体「Azro」が、6月5日に「趣味cafe」をプレオープンした。

この企画は、同団体の数十人いるメンバーの中、紅茶やコーヒー、お菓子づくりの趣味をもった3名が中心となり発案したもの。自分の趣味を披露することで、人をひきつけ、学群を超えた交流の輪を広げることを目的に開催された。

企画発案者で紅茶や日本茶好きの大村治之さん(リベラルアーツ学群4年)は、当日、インドで購入したダージリン茶を振る舞った。また、コーヒー好きの高橋祐樹さん(芸術文化学群1年)は、行きつけの喫茶店から同店の豆を使うことを条件にコーヒーサーバーを借り、2種類のコーヒーを提供。さらに、料理やお菓子作りが趣味の島田理央さん(芸術文化学群1年)が、紅茶やコーヒーに合わせてチーズケーキを用意した。

大村さんは「次回からは、本や映像なども用意し、ブースに分けて、好きなものについて落ち着いて話すことのできる環境づくりをしたいです」とコメントし、次回開催への意気込みを見せた。



高橋さんが持参した手動コーヒーミルを珍しそうに体験する学生